

サポセン mail

No.167.2017.1.19 発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町2-25-78 TEL&FAX 043-308-4436
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konnjiki.jp/

「やってみたいことをやれる！」

子どもの権利としてもっともっと認めていきたい。そして、認められてほしい。

それが大人になったときに一番役に立つことになるのではないかとおもいます。

「やってみたいことをやる」には相手に提案する力もいるし、

相手と葛藤しながら納得して、

やってみたいことを具現化していくのです。

だから、わがままとは違うのです。

その力に寄り添う時間、場所、同世代の仲間と、関わる大人。

みんなの力が必要です。

遊びは優れた表現活動。



11月に大木戸小学校で「忍者修行」をしたアフタフバーバンの北島尚志さんの言葉です。お正月にこの文章を目にしたとき、本当にこの言葉を大切に「こどものまち」にかかわりたいなと思いました。

子どもの「やりたい！」に付き合うということは、思いのほか覚悟が要ります。大人にだって都合もあれば、用事もある。なんてたって大人は忙しい・・・！大人はさっさと効率よくすすめる術を知っているし、『こうした方がいいのに！』と先が見えるのです。つい指示をしたり、アドバイスをしたくなります。でも大人が良かれと思って（善意で）子どもにするアドバイスは意外とくせものなのです。グッと言葉を飲み込んで、少しだけ待ってあげましょう。子どもは失敗したり、困ったりしながら、考え、気づいていきます。その体験が子どもを大きく成長させてくれます。他の子にもおおらかに待ってあげられる力もつきます。「こどものまち」は遊びの空間なのだから、儲けをださなくてもいいし、少しぐらい待たされても子どもは意外とへっちゃらです。

アフタフバーバンの人たちは本当に感心するほど子どもの声に耳を傾けて、「それってすごいね！」「お見事！」「よく考えたね！」と声をかけます。おせいじではなく、心から感動して一緒に遊びをおもしろがっているのが子どもに伝わります。どうぞ、当日は「こどものまち」という遊びを一緒に楽しんでくださいね。（安藤）



子どもたちの活動が始まっています！

1月29日（日）あすみが丘プラザ 参加：子ども18名 大人5名

第1回のこども会議は土気のあすみが丘プラザにておこないました。例年1回目の集まりはコアスタッフの子どものみでしたが、今年は高学年の子どもたちが少なく、こども会議からのスタートとなりました。

子どもたちが話し合ったのは「昨年から始まったタイムセールについて」です。ルールを書いた大きな模造紙をこのかちゃんと暉くんがさっと掲げてくれました。午前中は働きたい人ばかりで、ちっともお店の品物が売れないのでおこずかいを渡そうというものでしたが、去年お客さんで参加した子からは「11時までしか使えなかったから、結局使わないで終わっちゃったよ！」という意見が出ました。「11時半までにしようよ。」「12時まででもいいんじゃない。」「でもさ、みんなやりたい仕事に就きたいから、おこずかい貰っても使わないんじゃないかな・・・」「ねえ、仕事を予約制にすれば先に買い物をするんじゃないかな。」いろんな意見やアイデアが次々飛び出します。

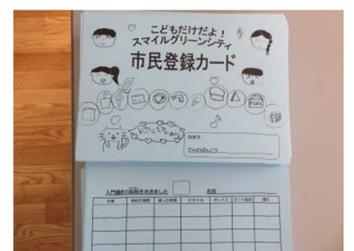


最終的に今年は職安に予約窓口を設置して、一部予約制を導入してみることにしました。お店が忙しくならないように、お給料は銀行でもらうことにしました。おこずかいは12時までつかえます。ボーナスや減給は店長が決めることにしました。

その後はお店ごとに集まり、どんなお店にするか？テントや机などの資材は何を借りるかを話し合い、発表しました。このかちゃんが決まった事を模造紙にどんどん記入してくれました。初参加でも積極的に意見を言う子、一生懸命話し合いで決まった事をメモする子、私のところにそっと意見を言いに来る子、どの子も頑張っている姿が印象的でした。

2月12日（日）誉田事務所 参加：子ども13名 大人3名

この日は小学校に配布するチラシ作りやお金・市民カードを作りました。一昨年のチラシは緑区だから葉っぱをたくさん入れて、去年はもっと花がいっぱいの可愛い感じにしたことを伝えました。今年は空に虹がかかってそこに笑顔があるイメージがいいという意見が出たので、「スマイルグリーンシティ」の名前は子どもたちが笑顔でいっぱい「まち」にしたい・・・という子どもの意見で決まったことを話しました。



「ねえ、このチラシが緑区中の小学校に配られるんだよ！」「一緒のクラスの子が来てくれると嬉しいな！」子どもたちの顔からわくわくする気持ちが伝わってきます。

当日のお店の配置もみんな話し合いながら決めました。自分のお店の都合だけでなく、他のお店のことも考えながら、譲ったり話し合いながら決めることができました。 (記 安藤)

あそび塾：in 古民家にて

みんなで まが玉作り と

火おこし体験！

1月のあそび塾は、千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターの方に来ていただき、勾玉作りと火おこし体験が行われました。

最初に「まが玉」のなぜ？を教えてください、作業に取り掛かりました。1つ1つの工程を、わかりやすく教えてください、スムーズに子ども達も迷うことなく仕上げることが出来ました。



まが玉って知っていますか？

■まが玉は、いつ頃作られていたの？

縄文時代から古墳時代にかけて作られたそうです。

■まが玉は、いったい何に使われたの？

昔の人のお守りだったそうです。

■この形はどうして？

おおかみの牙（パワーの象徴）。

自分も強いパワーをさずかりたい！

その思いから、おおかみの牙に似た形のお守りを作ったそうです。



まが玉作りの子どもの様子



みずき君・・・最後まで集中して作っていました、穴の中までやすりで磨いているのが印象的でした。

みちかちゃん・・・まが玉作りのベテランさん、一番回数をこなしているので、やはり上手。

りゅうせい君・・・ごろ団子作りの天才は、やはりまが玉作りも細かく丁寧でした。
まこちゃん・・・いつも笑顔を絶やさないまこちゃん、癒し系のがんばりやさん。
かやちゃん・・・いつもその場を明るくしてくれるかやちゃん、ムードメーカーです。
つばさ君・・・上手に根気よく作っていました。手も削っちゃったらどうしよう・・・など
冷静・慎重なところも。

なごみちゃん・・・いつも弟のお世話もみんなのお世話もしてくれるしっかり者。最後まで粘り強く作っていました。

感想

古民家の中で、集中してまが玉作りをする子ども達は、とても真剣に取り組んでいました。

次に、外に出て火おこし体験です。



風が強く寒い日でしたが、子ども達は元気いっぱいです！火がなかなか付かないのではないかと心配したのですが、子ども達のがんばりと、風が強いのも手伝って、案外にすぐ火が付いたので、子ども達は何度もチャレンジすることが出来て大はしゃぎです。火をつける方法は、上下に動かすタイプとは違い、2人で左右に引っ張り合うタイプでした。息を合わせて素早くやらなくてはいけないので、もうキャーキャー



ーではなくギャーギャー言いながら、みんなで楽しく体験することが出来ました。

古民家の魅力

今回の開催場所は、小山町にある古民家をお借り

しました。

昔懐かしいこの趣は、子ども達の心を落ち着かせ、気持ちのいい空間だったように思われます。

最近の家は、景色や眺望、個人のプライバシーを考慮した設計・間取りに重きが置かれているために、リビングは建物の端に設置されていることが多い気がします。古民家では自然に人が集まってくる中心に設置してあることから、自然にコミュニケーションがとれる設計になっていたのではないかとふと感じました。とてもいい環境で1月のあそび塾が出来たことをうれしく思います。

また、古民家から公園までの帰り道、15分位ですが、みんなで大笑いしながら歩いた事も私の中では、楽しい思い出となりました。(記 田中)

